

川の上りたなく大  
の。野、龍門訪正  
景色んなはの峡れたから  
にふ場所とくとして、晩年晶子鉄幹と幾  
てみ訪ねて、かりの水場が、な  
か。歌に重なるが桂

(与謝野鉄幹・晶子ゆかりの桂川小散歩)

# 上野原水辺の風景

## ◎上野原市へのアクセス

【電車】JR中央線新宿駅より上野原駅下車(1時間10分)  
 【お車】都心から中央自動車道上野原I.C下りる(1時間)  
 コース図の③の付近に駐車場があります。  
 P 桂川新田地区近隣公園駐車場  
 (4月1日～10月31日 9:00～19:00)  
 (11月1日～3月31日 9:00～17:00)



## ◎関係機関

JR	時刻・運賃に関するお問い合わせ JR東日本お問い合わせセンター	:050-2016-1600
バス	富士急山梨バス上野原営業所 富士急山梨バス上野原駅前発着所	:0554-63-1260 :0554-63-0373
タクシー	上野原タクシー 駅前タクシー 東亜タクシー	:0554-63-0106 :0120-08-9960 :0120-63-0124
緊急	上野原警察署 上野原市立病院	:0554-63-0110 :0554-62-5121

## ◎ちょっと一息 お立ち寄りください

桂川ルアー・フライ釣場 0554-63-0083  
 秋山温泉 0554-56-2611  
 いいじやん島田販売所(水、土、日のみ営業)

## ◎お食事はいかがですか？

一福食堂 0554-63-0636  
 ボンシェ・タカ 0554-63-5005  
 やまさんラーメン 0554-63-2260  
 いっちょ(焼肉) 0554-62-1512  
 スバル中華 0554-62-3717  
 すし乃やまえい 0554-63-6660  
 新屋鮨 0554-63-6368

## ◎問い合わせ

上野原市観光協会  
 上野原市観光ボランティアガイド  
 上野原市経済課商工観光担当

山梨県上野原市・上野原市観光協会  
 〒409-0192 山梨県上野原市上野原3832  
 TEL:0554-62-3119 FAX:0554-62-1086  
 E-mail:keizai@city.uenohara.lg.jp  
 HomePage <http://www.city.uenohara.yamanashi.jp>

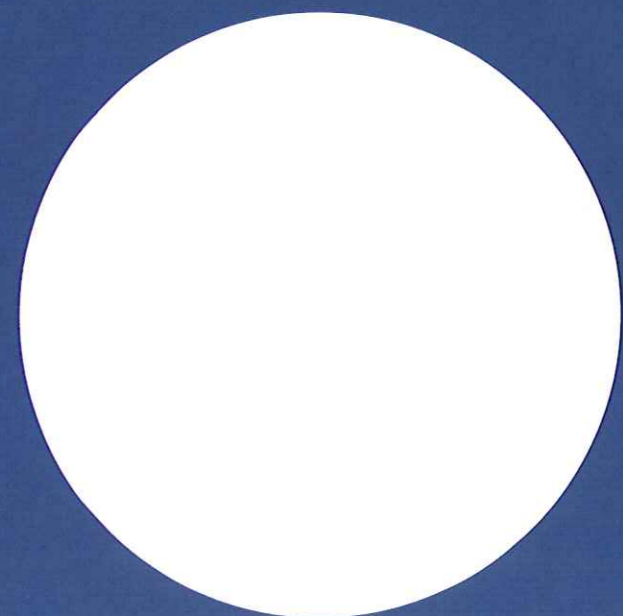


## 与謝野鉄幹・晶子ゆかりの桂川小散歩

JR上野原駅に記念スタンプがあります。  
 気軽にご利用ください。



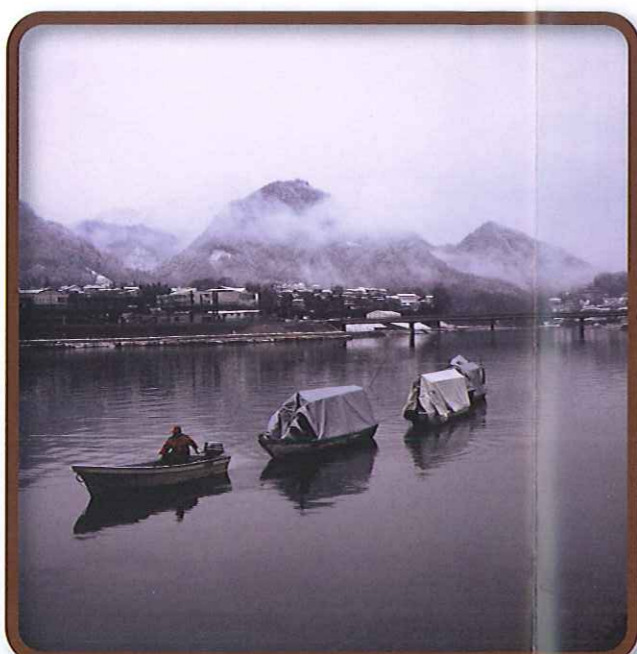
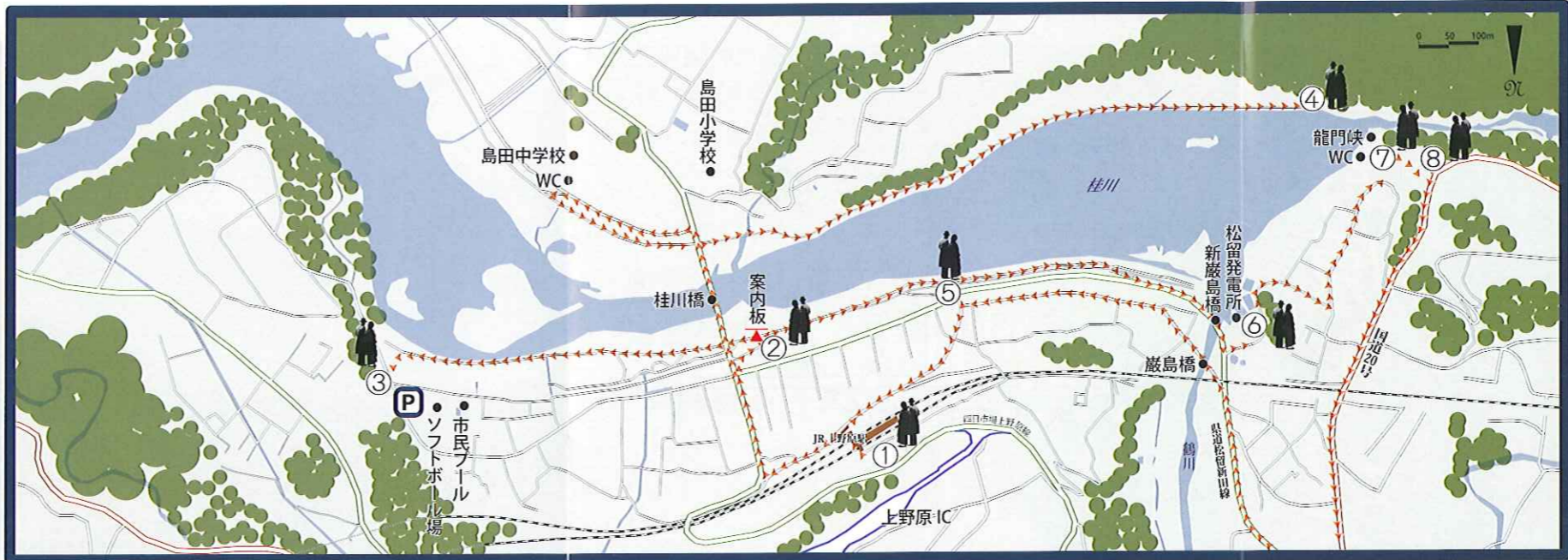
- ①上野原駅周辺
- ↓
- ②桂川橋
- ↓
- ③下新田神明社
- ↓
- ④龍門峡入口
- ↓
- ⑤川辺の逍遥
- ↓
- ⑥松留発電所
- ↓
- ⑦金剛山悉聖寺
- ↓
- ⑧依水荘





与謝野鉄幹・晶子ゆかりの桂川小散歩  
コース紹介(3時間30分)

- ①上野原駅周辺
- ↓
- ②桂川橋
- ↓
- ③下新田神社
- ↓
- ④龍門峡入口
- ↓
- ⑤川辺の逍遙
- ↓
- ⑥松留発電所
- ↓
- ⑦金剛山悉聖寺
- ↓
- ⑧依水荘



与謝野晶子が詠った上野原の美しい風景

① かつら川高き樺のかげにして鷹の巢めきし楼よりぞ見る

河岸段丘の中段に上野原駅とその上に三軒の駅前旅館がへばりつくようにある。見晴らしのよい船橋屋に休憩した晶子は、今は倒れてしまった樺の太木に取りつく鷹の巢の様な楼台から桂川の景観をこのように詠うのです。樺の木の残る周辺の坂道から鷹の気分を眺めてみませんか。

(駅の北口を降りて船橋屋旅館付近からの眺めをご覧ください。眼下に広がる美しい景色が見えます。)

② 桂川清き流れを針金の引く舟に居て星のここちす

今は桂川橋が架かっている場所も、晶子が初めて来たころは針金に引かれた船で渡る渡し場であり、その船に乗っていると星になったような気持ちがある。と詠むのです。橋の中央の欄干につかまり、桂川の水に映る空に星の子になったような気分を味わってみませんか。

(桂川橋の袂から河原にある公園へ降りられます。東側へ川を下るように移動します。水面がキラキラと輝いています。)

③ わが立つ瀬かの白き水石原も萩咲くみちもみなかつら川

現在は夕暮れ時のビューポイント、桂川橋、御前山、栃穴御前山を見渡せる湖畔が川面に映るとまるでギターの様な景色を見せてくれます。昔は川沿いに萩の花の咲く道があり、紅梅神社の周辺には萩園もあったそうです。晶子は「私が立っている浅瀬の白い水も石原も萩の花の咲く道も皆桂川なのです。」と詠っています。

(ここには、秋の訪れとともに萩の花が咲きました。控えめな美しい花です。次は④の龍門峡へ。桂川橋まで戻り、橋を渡ってすぐに左折します。島田中の前あたりから川辺に出て西側に向かいます。)

④ 下り立ちて龍門峡が放ちたる桂の川をたなごこに汲む

桂川の河原が急に狭くなり渓谷を作っている場所がある。そこが名勝峠岩や龍宮淵のある桂川峡です。初めて、ここを訪れた与謝野鉄幹がこの仙境を龍門峡と名付け、また二人で最後に訪れた時、夫鉄幹が「心にも桂の溪の流るらんここに遊びて思うこと澄む」と詠った場所です。今では遊船も訪れる人もまばらな龍門峡は、与謝野晶子の歌だけに詠われる特別な場所となったのです。

この歌も同じ時に作られた歌の一つで、あなたが名付けた龍門峡の澄んだ水を、かつらの河原に下り立ち、手のひらに汲んでみましたよ、と二人の響きあうような情景が浮かんでくるようです。

(次は⑤川辺の逍遙です。桂川橋に戻り北側の川辺をゆっくりと歩きます。)

⑤ 月見草萎れて甲斐のかつら川雨雲色の波の立つかな

桂川の川辺を歩くといろいろな花や鳥たちに出会います。中でも月見草は、桂川やその支流の鶴川を彩る花の代表かもしれません。中里介山も「上野原あたりには、そこらいつぱいに月見草の咲いている河原がある」と立田の姉さんが云いました。月の夜にその中を歩いてみたいものです。月見草は私が愛する花の一つです。」と書いています。昼間の河原に萎れて咲いている月見草に晶子はまた、「月見草薄墨色の山を負いあわれなれども族多く居ぬ」とも詠んでいます。月見草、河原野菊、カンソウの花、鶴鶴、青鷺、白鷺、燕、鴨、いろいろな草花や鳥に出会える河原あるきを楽しんでみたいですね。

(桂川には多くの鳥が生息しています。次は⑥松留発電所に向かいます。)

⑥ 波立てばつるとかつらの落合も千条の川のあつまるごとし

桂川と鶴川が合流するところに八ッ沢発電所から放水する水の落差を利用した無人の松留発電所があります。大月の駒橋で取水された桂川の水が最後に川に放水される場所で、水量も多く放水路として景観の良い場所として知られていました。その情景を晶子は、波が立つて広い河原に流れ込む川の合流場所は、千条もの川が集まるように流れていますよ、と詠んでいます。重要文化財に指定されている八ッ沢発電所の最後の放水施設であり、この放水路は指定されていませんが、晶子の歌とともに歴史的価値ある場所として、大切にしたい場所です。

(松留発電所の前は浅瀬になっていて、白いせせらぎが輝いて見えます。春から夏にかけては太公望が竿を指して賑やかです。⑦大きな大きな銀杏の門をくぐると金剛山悉聖寺です。この地域はボランティアの方が定期的に清掃活動を行っています。)

⑦ 悉聖寺の末の藁屋にとどまりてなほ如意輪の聞ける川音

郡内三十三番観音霊場一十五番曹洞宗金剛山悉聖寺は、武田一族が天目山に滅んだ時、上野原の加藤一族も落ち延びた箱根ヶ崎で滅び、その菩提を供養するために尼となった、加藤丹後守の姉、桂安理昌大姉が、この地に一字をたてたといわれています。この歌は夫鉄幹と一緒に依水荘に来たときに詠んだ歌で、悉聖寺の端の藁屋のようなお堂に如意輪の観音様が留まって夫が名付けた龍門峡の水音を聞いているよ、と詠んでいます。晩年、夫鉄幹亡き後に、依水荘で「暗き夜の龍門峡の水の音百尺上に悲しみて聞く」「尼といふものより少しさびしけれ、御寺となる水荘の人あるいは「甲斐源氏天目山に滅びたる三百年の後の秋風」と詠む晶子の心象風景につながる歌です。

(観音堂は上野原地区の保福寺の末寺で、保福寺さんが現在管理をしています。保福寺は、中里介山「大菩薩峠」の月見寺のモデルになったお寺です。境内には「波風や松の響も落ち合いてうぐいが淵に立つは白波」という歌が記されています。住宅街ですので、静かに楽しんでください。観音堂の裏を上っていくと⑧依水荘です。)

⑧ 溪ひらけ河原はじめる岩端の依水ホテルの夏草の花 晶子

宿れるは甲斐に重なる山なれど猶高きより不如帰啼く 鉄幹

富士山から流れ出た桂川の溪が開け、河岸段丘の典型のような景色を見せてくれる場所に昭和六年六月に建てられたモダンなホテルが依水荘です。現在は個人の住居になっていますが、外観と周囲の景色は当時のままです。昭和八年六月にはじめて宿泊した与謝野晶子夫妻、それから夫鉄幹亡き後、依水荘ほととぎすをばきみと聞き落花に歎き今霜に病むとして最後寝台自動車に寝たままやつてきて、病を養う人生最後の旅をここで過ごすことになるのです。与謝野晶子の最後の傑作「白櫻集」に収められた、たくさん

の歌にも是非ふれてほしいですね。